

# 緑化通信

2019  
12月25日  
(年7回25日発行)  
第476号



発行所 一般社団法人 日本植木協会

〒107-0052 東京都港区赤坂6-4-22 三沖ビル3階  
TEL.(03)3586-7361 FAX.(03)3586-7577  
URL : http://www.ueki.or.jp/  
E-mail : honbu@ueki.or.jp



購読希望の方は上記宛へお申込み下さい。年間購読料 5,000円

## 新年のご挨拶



一般社団法人 日本植木協会  
会長 宍倉孝行

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては良き新年をお迎えのことお慶び申し上げます。会員の皆様方には、平素より協会の事業活動に対し格別なご指導・ご協力を賜り心より御礼申し上げます。昨年、台風、集中豪雨

の自然災害に見舞われ、これらの災害によって被害を受けられた会員の方々に改めてお見舞いを申し上げます。また、協会は、本年、創立50周年を迎えることになりました。これもひとえに行政機関のご指導や会員各位の絶え間ないご努力の賜と感謝申し上げます。

この間、協会は緑化樹木の生産振興・流通や普及啓発事業を着実に遂行し、一般社団法人移行後は、公益目的の事業に基づき公益目的の事業を実施してまいりました。公益目的の事業では、人材育成事業の環境緑化樹木識別検定、植生アドバイザー養成講座や普及啓発事業で

は子どもたちに「みどりの大切さを教えるための」緑育出前授業、記念樹等贈呈事業とともに全国的に展開して参りました。これまでの積み重ねにより、今年も多くの方々に参加していただけるよう受講内容の更なる充実を図り事業を進めるとともに、資格取得した方々が緑化や植生復元などの社会的ニーズの高まりにこたえるための活動の場、環境整備に努めて参りまいりたいと考えています。

また、普及啓発では、小石巻復興記念公園につき

ましては、我が国唯一の緑化樹木生産団体である本協会として、今後の植栽に向けて準備を進めるとともに、被災地の一日も早い復興とみどりの豊かな街づくりに貢献して参る所存でございます。

本協会を取巻く環境は、会員及び生産数量の減少等依然として厳しい状況が続いていますが、新しい生産技術の開発、流通の円滑化など新たな取組みも積極的に推進して参る所存でございます。

今後とも、関係機関・団体等との連携を一層密にし、会員の皆様とともに、樹木生産・流通を通じ環境保全や新しい街、地域づくりに参画し緑化推進に貢献して参る所存でございます。引き続き、格別のご指導・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、会員の皆様、関係各位の益々のご発展とご健勝を祈念し、年頭のご挨拶とさせていただきます。

## 新年のご挨拶



一般社団法人 日本緑化センター  
会長 矢嶋進

新年明けましておめでとうございます。一般社団法人日本植木協会会員の皆様におかれましては、清々しい気持ちで新たな年をお迎えのことお慶び申し上げます。また、平素より当センターの事業活動に対して格段の御指導・ご鞭撻を賜り心より御礼申し上げます。令和2年の年頭にあたり、謹んでご挨拶を申し上げます。

自然災害の多い年となりました。これらの災害により、お亡くなりになった方のご冥福をお祈りいたしますとともに、被災された方々に対しまして、衷心よりお見舞いを申し上げます。特に、台風15号では、首都圏において大規模な停電が発生し、復旧にかなりの期間を要する事態となりました。強風により倒木が多く発生し、送電設備等の復旧に支障をきたしたことがその一

因であり、森林や都市樹木等の適切な管理の必要性を強く認識いたしました。また、今年、東京オリピック・パラリンピックが開催される年であり、世界から多くの人々をお迎えする準備が進んでいます。緑豊かな東京を、そして、日本を世界にアピールする絶好の機会であり、官民を挙げて、緑化推進の取り組みを進める機運がさらに高まるものと期待しております。

このような中、私も一般社団法人日本緑化センターは、国土緑化、都市緑化、工場緑化等を推進するため、緑化に関する専門技術者の養成、技術講座・研究会の開催、情報の収集・提供、緑化思想の普及・啓発、調査研究、技術開発など様々な分野にわたる事業に取り組んでおります。

緑化を着実に推進するためには、それを支える専門的な技術者の育成が必要不可欠であり、当センターでは、樹木医、松保護士、自然再生士の養成認定事業を実施しております。これらの緑化等に関する専門資格の保有者の方々は、全国の現場において、緑化に関する様々な活動や業務に参画し活躍しており、引き続き

その育成に尽力してまいります。我が国固有の緑の文化を育んできた松林の保全再生も当センターの重要な事業のひとつです。その一環で東日本大震災からの復興に資する取り組みとして、岩手県の高田松原において、地元組織と協力しその再生を推進しております。平成29年より本格的な植林に着手しており、今年も引き続き植林活動や植林した松林の保育を実施してまいります。

毎年秋に開催している工場緑化全国大会は、昨年38回を数えました。昨年より新たに表彰工場等に対し『全国みどりの工場大賞』という通称を用いることになりました。毎年素晴らしい工場緑化の取り組み事例を拝見させていただきます。

結びに、本年が皆様にとって実り多い年となりまことを祈念いたしまして新年のごあいさつとさせていただきます。

結びに、本年が皆様にとって実り多い年となりまことを祈念いたしまして新年のごあいさつとさせていただきます。

### 令和2年通常総会開催のご案内 (創立50周年記念大会)

- 1. 開催日 令和2年1月22日(水)
- 2. 会場 ホテルグランドアーク半蔵門 東京都千代田区

### コンテナ農場(100万本生産)



オリーブ



カンツバキ赤花と白花

- 主な生産物
- クロマツ コニファー類 ヤシ類
  - カシ類 クスノキ タブノキ
  - モチノキ ウバメガシ オリーブ
  - カクレミノ クロガネモチ
  - サンゴジュ シマトネリコ
  - マテバシイ ヤブツバキ ヤマモモ
  - レッドロビン オウゴンマサキ
  - カンツバキ(赤花と白花) サザンカ
  - シャリンバイ ツツジ類 トペラ
  - ハマヒサカキ ヒサカキ ミカン類
  - サクラ類 イロハモミジ ハナモモなど

## (株)瀬戸内園芸センター

愛媛県今治市旦甲 248-1 TEL 0898-48-0010(代) FAX 0898-48-8187  
http://www.setoen.com/ E-mail : setouchi@setoen.com



# 新年のご挨拶



林野庁 森林整備部  
整備課長 長崎屋 圭太

令和2年の年頭にあたり、謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

一般社団法人日本植木協会並びに会員の皆様方におかれましては、清々しい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、日頃より森林・林業行政について特段の御理解と御協力をいただいておりますこと、さらには、苗木生産技術の高度化、種苗の安定供給、環境緑化に向

けて御尽力いただいておりますことに対して、厚く御礼申し上げます。

昨年、8月頃からの前線に伴う大雨や度重なる大型台風の影響等により、全国各地で甚大な被害が発生しました。被害を受けられた皆様から御見舞いを申し上げます。林野庁として、山腹崩壊や被災した林道施設等の早期復旧に向けて全力で取り組んでまいります。

さて、我が国の森林・林業を取り巻く状況を見ますと、森林資源が本格的な利益を期を迎えており、今後、主伐の増加が見込まれると見られます。先人の築いた貴重な資産を継承・発展させていくためには、主伐後の再造林を確実かつ効率的に行うことが必要となります。

特に、植え付けがしやすい、伐採時期に合わせた種が可能なコンテナ苗について、我が国の苗木の生産に

向けては、森林緑化の効率化・低コスト化に向けた主伐・再造林の一貫作業システムを積極的に導入していく上でも不可欠なものと考えております。

さらに、特定母樹やエリートツリー等の優良品種だけでなく、近年ではコウヨウザンやセンダンなどの早生樹の活用も注目されており、各地で施設技術の開発に向けた実証的な取組が行われております。

また、都市及び都市近郊においては、ヒートアイランド現象への対策としての建築緑化やリラクゼーション効果としての景観緑化等、都市緑化のニーズが一層の高まりを見せており、社会的需要に応じていくことが必要となっております。

## 平成31年度 第5回理事会を開催

このような時代のニーズに応じた苗木の生産に向けては、高度な知見と技術を有する貴協会の役割が益々重要なものとなっております。林野庁といたしましては、貴協会と一層の連携を深めつつ、森林の適切な管理と林業の成長産業化の実現に向けて取り組んでまいりますので、会員の皆様におかれましては、種苗の安定供給のために更なる御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、貴協会並びに会員の皆様の益々の御活躍と御発展を祈念申し上げます。また、年頭の御挨拶とさせていただきます。

○令和2年度の収支予算については、会員減少等にと

り、このための栽培管理の実証等に取組むことができます。出業者と連携した輸送販売の開始、これまでに輸出実績のない産地とバイヤーとのマッチング支援による商流構築・拡大の取組への支援を引き続き進めてまいります。

# 新年のご挨拶



農林水産省 生産局 園芸作物課  
花き産業・施設園芸振興室  
室長 長峰 徹昭

令和2年の年頭にあたり、謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

一般社団法人日本植木協会及び会員の皆様方におかれましては、平素より花き産業及び花きの文化の振興に御尽力を賜り、心から感謝を申し上げます。

昨年、九州北部豪雨や、9月～10月に上陸した複数の台風等、全国各地において多くの災害が発生し

ました。これらの災害で被災された方々に対し、改めて御見舞い申し上げます。

農林水産省におきましては、花きの振興に関する法律の目的である花き産業の発展と心豊かな国民生活の実現に向けて、国産花きのシェア拡大と輸出を含めた需要の拡大を関係者の皆様と一致団結して進めてまい

りました。我が国の植木はアジア圏や欧州等からのニーズも強く、花き輸出の柱となっております。輸出額は、平成29年から2年連続で100億円を越えました。

農林水産省として、海外でのプロモーション活動や、産地へのバイヤー招聘による新たな商材の発掘や、我が国の多様な樹

種及び品質の高さを訴求することによる取扱拡大、輸出業者と連携した輸送販売の開始、これまでに輸出実績のない産地とバイヤーとのマッチング支援による商流構築・拡大の取組への支援を引き続き進めてまいります。

花き関連予算については、令和元年度からは、品目ごとの生産・需要状況等の特徴に応じて、花き産業関係者が一体となった生産から流通・消費拡大に至る一貫した取組を支援する「次世代国産花き産業確立推進事業」を実施しております。植木等につきましても、例えばこれまで輸出していなかった樹種の輸出に向けた植物検疫をクリアす

るための栽培管理の実証等に取組むことができます。出業者と連携した輸送販売の開始、これまでに輸出実績のない産地とバイヤーとのマッチング支援による商流構築・拡大の取組への支援を引き続き進めてまいります。

また、昨年4月29日から10月7日までの162日間に行われた、中国北京市において、2019北京国際園芸博覧会が開催され、我が国は国土交通省と連携し、屋内展示及び日本庭園を政府出展しました。日本の出展は大変好評で、国際屋外展覧会では「大賞」を受賞しました。本博覧会をきっかけに、さらなる輸出の拡大に弾みがつくよう、取り組んでまいります。

さらに、貴協会はいよいよ

## 環境緑化識別樹木識別検定実施委員会 樹木識別のポイント講義・適性試験を実施

環境緑化識別樹木識別検定実施委員会 樹木医研修 適性試験を実施

（一財）日本緑化センター主催の樹木医研修で、当協会担当の樹木識別ポイント講義・適性試験が10月11日（金）、10月25日（金）の2回、筑波研修センターで開催された。協会からは川原田委員長および吉澤、八木、山崎の各委員が講師となり、樹木医試験合格者105名に樹木の特徴や識別ポイントの説明を行った。講師陣は150種を超える樹木の見分け方を解説。受講者も多くの樹木を前に活発な質問や熱心にメモをとる姿



樹木医合格者に教える八木委員

もって承認があった認可された報告があった。

○事務局から、令和2年度は、日本緑化センターからの委託費の削減とプロマ環境協会の「みどりの香るまちづくり企画コンテスト」の副賞経費が半減されることもあり大変嬉しい予

算状況にあるとの報告もあった。

令和元年10月20日(月)、東京農業大(東京都世田谷区)において、第10回植生管理士認定試験が実施された。受験生は全国から5名が受験し2名が合格、これまで68名の合格者を輩出している。

試験は安全管理、植生調査基礎コース、植生復元コースの4部門を2時間に行われた。植生管理士認定試験は、植生を調査・復元するスキルを持つプロを認定する試験として、今後の普及浸透が期待される。



川原田委員長

キユラムは当協会ならではプログラムの評価が年々高まっている。緑化センターからは来年以降も継続していただきたいとの要請を受けており、各講師は更なる普及啓蒙に意気込みを見せている。



植生管理士認定試験受験 (東京農業大学)

## 植生調査委員会 認定試験を実施

令和元年10月20日(月)、東京農業大(東京都世田谷区)において、第10回植生管理士認定試験が実施された。受験生は全国から5名が受験し2名が合格、これまで68名の合格者を輩出している。

試験は安全管理、植生調査基礎コース、植生復元コースの4部門を2時間に行われた。植生管理士認定試験は、植生を調査・復元するスキルを持つプロを認定する試験として、今後の普及浸透が期待される。

**令和2年度 各部会総会案内**

**コンテナ部会総会**  
令和2年1月23日(木)  
砂防会館 (東京都千代田区)

**新樹種部会総会**  
令和2年2月5日(水)  
アークホテル岡山

**青年部会総会**  
令和2年2月6日(木)  
(株)岡山コンベンションセンター

### 新年のご挨拶



国土交通省  
都市局公園緑地・景観課  
緑地環境室  
室長 五十嵐 康之

令和二年の年頭にあたり、謹んで新年のお祝いを申し上げます。

一般社団法人日本植木協会並びに会員の皆様におかれましては、健康やかに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、平素より公園緑地並びに緑化関連行政に一方ならぬご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

本年は、いよいよ東京2020オリンピック・パ

### 新年のご挨拶



環境省  
水・大気環境局  
大気生活環境室  
室長 東 利博

令和二年の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

一般社団法人日本植木協会及び会員の皆様におかれましては、平素より、豊かな緑を通じた環境保全行政の推進に多大なるご尽力を賜り、心よりお礼申し上げます。

平成30年4月に閣議決定された第5次環境基本計画は、「持続可能な開発目標

また、社会資本整備や土地利用などのハード・ソフトにおいて、自然環境が有する多様な機能を活用し、持続可能な魅力ある国土・都市・地域づくりを進める取り組みとして、グリーンインフラ推進戦略(令和元年7月)を策定しました。モノとしての側面だけでなく検討プロセスに組み込むこととしての役割を深めつつ、樹木に代表されるグリーンインフラの社会実装を進めてまいります。

各地の庭園やガーデンを個性あるテーマで連携をさせ磨き上げてゆく取り組みを始めました。現在では審査委員会を経て、北海道から一登街道、湘南邸園文化ツリズム、にいがた庭園街道、宮崎花旅365等、魅力の溢れる8つの計画が登録されています。樹木や花を軸にしたツリズムにより地域に新たな活力と魅力をさらに広めてゆきたいと考えています。

国土交通省では、平成31年4月にガーデンツリズム登録制度を創設し、日本

#### 令和二年度全国都市緑化フェア

愛称：ひろしま はなのわ 2020  
テーマ：「花笑(はなえみ)」  
ひろしまから花の笑顔と平和のわ  
会期：3月19日(木)～11月23日(月・祝)  
…メイン会場の広島市中央公園は3月19日(木)～5月24日(日)

国際園芸博覧会場で開催された国際園芸家協会AIPHの総会において、横浜市が招致している2027年国際園芸博覧会が承認されました。日本では1990年の大阪花の万博以来のA1クラスの国際園芸博覧会を目指しています。

緑は人間生活に求められる本来的な価値を有しており、確実な社会的需要と、公民協力した取り組みの必要性はさらに増してきていると考えられます。こうした潮流に、ともに取り組むことにより、貴協会の益々の充実・発展につながることを期待し、あわせて会員各位の益々のご健康を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。本年もどうぞよろしくお願ひ致します。

(SDGs)の考え方も活用しながら、環境面の課題だけでなく、経済・社会的な成長につなげていくことを目指しています。SDGsには緑豊かな自然を守ることを含む17のゴールが設定されており、また、今後の環境基本計画では、美しい自然環境や伝統的文化等の地域資源を活かした「地域循環共生圏」の考え

方が提唱され、森・里・川・海をつなぎ支える取組等が進められています。平成18年度より貴協会から副賞提供等のご協力を得て環境省が実施している「みどり香のまちづくり」企画コンテストは、まちづくり

また、本年は東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。我が国で最も暑い時期の開催ということも、選手のみならず、観客、ボランティアスタッフの健康管理が心配されること

「地域循環共生圏」の考え

環境基本計画が掲げる「経済・社会的課題の同時解決」を先んじて志向しているものが多くみられます。植物の持つ独特の心地よい香り空間を地域に創出し、人を呼び込むことで地域の活性化を進めていくことは、過疎化、少子高齢化社会を迎えた取組みとして考えています。

「暑さ指数」を3度程度下げ、熱中症への警戒度を一段階引き下げることができるとも分かっています。各地域においても、平成30年に成立した気候変動

#### 訃報

- 相澤芳夫様(相澤裕氏のご尊父様)  
(有)相澤園芸(栃木県)  
令和元年12月7日没  
享年93歳
- 仲田文男様(協会員)  
(有)総合緑化仲田(埼玉県)  
令和元年11月16日没  
享年76歳
- 小柳信孝様(小柳秀樹氏のご尊父様)  
恒樹園(東京都)  
令和元年11月13日没  
享年81歳
- 阪上英子様(阪上和彦氏のご母堂様)  
(有)作樹園(兵庫県)  
令和元年10月30日没  
享年92歳

- ▷(有)安藤豊楽園(三重県) 安藤 勉
- ▷(株)カカショー(和歌山県) 高岡信夫
- ▷川原種苗園(福岡県) 河原洋一郎

- ▷(株)青葉造園土木(福島県) 室原泰四
- ▷湘南園(神奈川県) 内野宗一
- ▷田島種苗(株)(愛知県) 田島 平一

#### 退会

## 会員動向



おかげさまで  
皆様とともに  
100年  
創業 大正8年

造園材料販売 造園設計施工



生駒植木株式会社

代表取締役 生駒 順

〒244-0004 横浜市戸塚区小雀町1805  
TEL.045-851-1805 FAX.045-852-6068  
E-mail: matsu-tora@ikoma-ueki.co.jp  
http://www.ikoma-ueki.co.jp

シリーズ 協会各委員会紹介

第6弾

# 日本列島植木植物園運営委員会

委員長 石川 剛 (石川園・東京都)



日本列島植木植物園運営委員会は、緑育出前授業実行委員会と共に、日比谷公園ガーデニングショーに参加協力しました。

平成15年4月29日(当時みどりの日) オープンを目指して各々の自社の圃場を活用した植木植物園を立ち上げました。現在北海道・東北6社園、関東甲信越26社園、中部11社園、近畿6社園、中・四国6社園、九州13社園、計68社園が登録していただき各地域における緑や自然に対する社会貢献、種の保存、生産の独創性等を目的としています。

列島植物園の中にはナショナルコレクションとして、あじさいやもみぢ、ガマズミ、枝垂れ等の専門グループもあり様々な品種を保有して対応できるようにしております。

年に1回日本各地へ視察研修も行っており、県立植物園や公園(植栽事例など)や生産地を見学させてもらいながら生産者や参加者の交流も深めて、参加者には何かのきっかけを作ってもらえる様にと考えております。協会ホームページと連動し緑化通信にナショナルプランツコレクションの掲載、ホームページの植木植物だよりにより新芽や花がきれいな時に携帯からも投稿できるようになっております。

運営委員は委員長石川剛(石川園)、副委員長古川和生(古川庭樹園)、委員川原田邦彦(確実園園芸場)、生駒順(生駒植木株)、山崎隆雄(株ワイズプランツ)、清水洋樹(株清水植物園)、大村数也(株清光園芸熊本支店)、オブザーバーで若林芳樹(株アスコット)、担当理事は菅原豊様(株みちのくビオトープ) いつも前向きな考えで委員会の時には素晴らしい助言を頂いております。荒野に咲く一輪の花中村彩子は事務局で荒くれ共の監視をしております。みんな個性豊かな面々ですがこれからも日本植木列島植物園を宜しくお願いいたします。

「緑化通信」ナショナルプランツコレクションに掲載された記事はHPでも見ることが出来ます。HPでこの画面をクリックすると、右のように紹介されます。



**日本列島植木植物園 運営委員会**  
岡山・香川県視察研修  
大村 数也  
(株清光園芸熊本支店)

(株清光園芸熊本支店 令和元年9月25日(水)〜26日)に岡山県(株清光園芸、栗林公園、香川県(株山地緑化センター、(有)半田植物園、坂出緩衝緑地番の州公園に21名の参加で視察研修を行いました。

最初の(株清光園芸は、売店が花卉と植木コーナーに分かれていて、今回は植木を中心に視察を行ったが、種類も豊富でよく管理されていて、よく動かししているようで根の状態も良さそうでした。大村社長は、圃場や植木のことだけでなく経営

特別名勝栗林公園は、初めて訪れましたが、ここまで広大な立派な公園とは思っていませんでした。総面積75haで大名庭園として使用されているだけあって見応えがあり、300年以上手入れをされてきた歴史は、圧巻でかけがえのないものと感じました。

2日目の(有)半田植物園は、オリーブの生産が主でかなりの生産量があり、どれもよく管理された畑でした。また委託や試験植栽も多く見せていただきました。

次に(株山地緑化センター)に伺い売店を見せて頂いたが、とても勉強になりました。かなり年代ものの立派なものもあり、ただただ驚くばかりでした。

最後に協会も協賛している環境省主催の「第13回みどりの香るまちづくり」企画コンテストで受賞された坂出緩衝緑地の州公園に行きました。昔は塩田だったところを造成して造られてよいうで植栽にはかなり苦労



(株)山地緑化センター 山地社長を囲んで

最後に協会も協賛している環境省主催の「第13回みどりの香るまちづくり」企画コンテストで受賞された坂出緩衝緑地の州公園に行きました。昔は塩田だったところを造成して造られてよいうで植栽にはかなり苦労



緩衝緑地番の州公園にて



(有)半田植物園



栗林公園



(株)清光園芸 (植木の売店)

学術委員会

# トキワマンサク(Loropetalum chinense)の品種・系統に関する調査報告

東京都農林総合研究センター 緑化森林科 佐藤 澄仁

## 1. はじめに

トキワマンサクは、マンサク科トキワマンサク属の常緑小高木で、学名は *Loropetalum chinense* 英名は Evergreen witchhazel. 中国南部・インドに分布し、わが国の本州の一部、静岡・三重・熊本県と中国からヒマラヤに分布している。熊本県の小岱山(しょうたいさん)、三重県の伊勢神宮、静岡県湖西市の神座地区が群生地として知られている。葉は卵形の暗い緑色で、互生する。4月から5月ごろ、枝先から花柄をだし、淡いクリーム色の花を咲かせる。花弁は4個あり、3〜6個の小花がまとまって着く。基本種は緑の葉に白い花を着ける。葉が紅色のベニバトキワマン

サク(ルブラム)や赤い花が咲くベニバトキワマンサク(ロゼウム)、緑色の葉に紅白の模様が入るゲンベイトキワマンサクなどがある。近年には多くの品種が登録されている。トキワマンサクは、赤花種の生産が増えてくると生け垣などに利用されるようになり、刈り込みが強くなり、病害虫の発生も少ないことから人気樹種となってきた。トキワマンサクは種子採種が容易で、発芽も良いことから実生繁殖が行われ、数多くの品種や系統の生産が行われている。

一方、都市緑化の利用場面では、基本種である青葉白花、青葉赤花、赤葉赤花の3種の取り扱いが中心であるが、実生繁殖が増加し

ていることから基本種に類似した系統が流通するようになり、利用場面では混乱がみられる。そこで、協会と協会の協力を得て、74株の品種・系統を集め、生育・鑑賞特性の把握を行った。ここでは、登録品種の評価は行わず、系統の評価のみとした。

2. 調査方法  
2015年4月9日、東京都農林総合研究センター(立川市富士見町)の赤土客土圃場に植栽した。調査は、定植時に生育特性(樹高、幹径、葉張り)を行った。花色や葉色、花弁など特性調査を2017年4月17日、6月19日、11月21日に行った。

3. 調査結果  
樹高による生育評価は、

全株の平均でみると2.8倍となり、最も生育した青葉白花種(No.20)で6倍と成長した。最も生育の遅いもので1.4倍であった。コンパクトな樹形と申告のあった種では4.7倍と十分な生育を示した。

花色は、各種の開花時に調査し、淡い赤色から濃い赤色(白色)に分別できた。中には赤色と白色の2色咲き分けもみられた。葉の色は緑色から濃い赤色がみられ、赤葉と申告のあったものの中には展開葉が初期だけ暗赤色を示し、日が経つにつれ緑色に変わるものもみられた。また、赤葉の中には、秋以降明赤色に変色し、落葉するものもみられた。

開花期である2019年4月9日に学術委員会の委員の方々と、これまでの調査結果の検討と実際の植栽地において、目視により確認した。開花の状況と樹形などから最終的な標準株の候補を



《青葉白花》



《青葉赤花》



《赤葉赤花》

選抜された標準株

## 学校紹介 兵庫県立農業高等学校 学校紹介

### 学校紹介

本校は明治30年に前身の兵庫県簡易農学校として開設し、平成29年度には創立120周年を迎え、これまでに多くの人材を輩出してきた歴史ある学校です。

現在7つの専門学科を持つ、農業科単独の高校で、農業を通じてこれからの社会を担う人材育成を目指し教育活動に取り組んでいます。

【造園科】  
造園科では「日本庭園や海外庭園の歴史や様式に学び、現在における庭園の設計や製図、緑化材料を活かした作庭、ピオトープ、生物多様性に配慮した管理など総合的な庭作りや管理の技術を習得した人材育成」を目標に教育活動に取り組んでいます。

また、OBからは、梯子の上り方、農薬の使用、造園作業に潜む危険性などの講演をしていただき、淡路公園の洋風庭園、須磨離宮の庭・屋上庭園、須磨離宮公園の洋風庭園、淡路景観学校のイングリッシュガーデン・園芸療法庭園、神戸市のサッカースタジアムデン・園芸療法庭園、神戸市のサッカースタジアムデンの芝生管理、ゴルフ場でのコース管理、京都見学研修など、プロ現場でプロの仕事を感じながら実践教育に取り組んでいます。

また、製造ではエクステリアの専門講師に10時間来ていただき、細やかなアドバイスをいただくチャンスや、樹木医に来院してもらい、顕微鏡を使いながらの病気の解説や樹木医の仕事の紹介をしていただいています。

また、OBからは、梯子の上り方、農薬の使用、造園作業に潜む危険性などの講演をしていただき、淡路公園の洋風庭園、須磨離宮の庭・屋上庭園、須磨離宮公園の洋風庭園、淡路景観学校のイングリッシュガーデン・園芸療法庭園、神戸市のサッカースタジアムデンの芝生管理、ゴルフ場でのコース管理、京都見学研修など、プロ現場でプロの仕事を感じながら実践教育に取り組んでいます。

また、製造ではエクステリアの専門講師に10時間来ていただき、細やかなアドバイスをいただくチャンスや、樹木医に来院してもらい、顕微鏡を使いながらの病気の解説や樹木医の仕事の紹介をしていただいています。



兵庫県立農業高等学校正面玄関と7学科の生徒



淡路景観園芸学校園芸療法庭園にて園芸療法の研修



令和元年第57回技能五輪全国大会

学んだ力を実践で発揮するため、各種イベントにも積極的に参加しています。庭としてだけでなく、このように兵庫県下で唯一造園を学べる学科として多くの造園関係の人々に支えていただきながら造園を学ぶ一方で、造園を多面的にとりこみ幅広く学習に取り組んでいます。



マイスターによる竹垣作り講習会

【豊富な外部講師を招いた授業展開】  
年間通じて造園のスペシャリストから直接学ぶ機会が多く、竹垣や敷石の扱い、芝張りなどは非常勤講師から授業をしていただきます。



庭園見学(京都 龍安寺)

また、OBからは、梯子の上り方、農薬の使用、造園作業に潜む危険性などの講演をしていただき、淡路公園の洋風庭園、須磨離宮の庭・屋上庭園、須磨離宮公園の洋風庭園、淡路景観学校のイングリッシュガーデン・園芸療法庭園、神戸市のサッカースタジアムデンの芝生管理、ゴルフ場でのコース管理、京都見学研修など、プロ現場でプロの仕事を感じながら実践教育に取り組んでいます。



造園技能検定練習風景

未来の業界を担う若者たち  
兵庫県立農業高等学校 学校紹介

# 特集 帯化(石化)

株式会社 アスコット  
若林芳樹

帯化(石化)は植物の形態的な変化の一つで、本来は線状に伸びる枝や茎が面的に広がって伸びる特殊な現象です。

枝や茎が生長する元となる部分を生長点と呼びますが、名前の通り点状の小さな部分が細胞分裂を行って、その細胞が生長していくことによって線状に長く伸びて枝や茎となります。ところが何らかの原因で生長点が横に長く伸びたり、複数の生長点が合体したりして線状になることから、枝や茎が帯状(面的)に広がって生長するため、幅広の独特の形になるのです。

古来、石化ヤナギや石化エニシダなど活け花の枝物として使われることが多いので、ご覧になったことがある方も多いかと思いますが、インターネットで検

索してみると、これまでに帯化が確認されている植物の数は800種以上にも上るといえます。キク科やアブラナ科、ナデシコ科などのほか、サボテンなどの多肉植物にも多く見られ、栽培されています。一年草のケイトウは、現在では改良されているいろいろな花の形をした園芸品種が作られていますが、昔ながらのケイトウは、花穂がニワトリの鶏冠(とさか)のように横に広がった形となることから名前がつけました。普段見慣れた姿なので改めて帯化(石化)の事例だと意識してみることはありませんが、最も身近にみられる事例の一つではないでしょうか。

最近見つけた樹木の帯化(石化)の事例の一つを紹介します。冬の花の少ない

時期の貴重な花木として利用が多くなりつつあるマホニア‘チャリティ’(Mahonia x media‘Charity’)です。この樹木はヒイラギナンテン(Mahonia japonica)とマホニア ロマリフォリア(Mahonia lomariifolia)との交雑種の一つで、細長い花穂が先端にまとまってつき、すっきりした姿が特徴です。ただし、最近流通している多くの株は実生で増やされた株とも言われており、1本1本の花穂が短く、それに多くの花がついた姿は太目で、一見帯化(石化)しているようにも見えます。花穂の形が細目で長くすっきりした姿が良いか、短めで太目の姿が良いかは、人それぞれ好みによって異なる場所があると思います。

帯化(石化)したマホニア‘チャリティ’は、いくつか播いた実生の中から見つかったもので、帯化(石化)した部分のアップ写真がないのでわかりにくいと思いますが、数本の花穂が元の部分で1本に合着して伸びているようです。生長するにしたがって先の方で分かれて伸びているようすも見えます。ケイトウのように完全な帯化(石化)ではありませんが、植物の帯化(石化)の例に加えてもおかしくないと思われそうですがいかがでしょうか。

数年の観察結果を見ても毎年同じような開花状態となり、側枝についた花穂も同じような花の咲き方をするので、この性質は現状では固定しているようです。上記したように人によって好みは千差万別です。帯化(石化)した姿は珍しい事例として標本的な価値はあるとしても、花のついた姿はあまり美しいとは言えず、観賞価値があまりないように見えるのが残念です。



園芸化されているケイトウの帯化(石化)



流通している実生の花穂 短くて太目 一見帯化(石化)しているように見える



実生で生まれた帯化(石化)株の花穂



突然変異で生まれたセイヨウタンポポの帯化(石化)



本来の‘チャリティ’の果穂 長くすっきりしている



実生で生まれた帯化(石化)株の果穂

## 連載「里山植物と景観」

### 第3回 里山の藪と生垣

東京農業大学名誉教授 中村幸人



◆プロフィール 中村 幸人(なかむら ゆきと)  
1952(昭和27)年3月 東京農業大学名誉教授(博士 理学)  
専門: 植生学、植物地理学、景観生態学  
神奈川県鳥獣総合対策協議会委員、神奈川県公共事業評価審査会委員、国際植生学会群集命名規約委員会委員 他  
横浜国立大学助手、作新学院大学教授を経て平成14年より東京農業大学教授

「卯の花の匂う垣根にホトトギス早も来鳴きて…」とは「夏は来ぬ」の最初の一節ですが、初夏の情景が目目に浮かぶようです。卯の花とはアジサイ科のウツギの花のことで、純白の小さな花をたくさんつけている6月頃の情景です。ウツギは身近な里山の植物で雑木林などの林縁部に生えています。昔は野生の植物を利用して生け垣を作ったのですね。生け垣にしやすい植物とはどんな植物でしょうか。目隠しとして視界を遮るようになくさん分岐する灌木で剪定がしやすく、また、日当たりのよい場所を好む木本植物です。

自然界にはウツギの名を冠するのが多くあり、ウツギのほかにもアジサイ科のマルバウツギ、ヒメウツギ、バイカウツギ、スイカズラ科のハコネウツギ、タニウツギ、ニシキウツギ、ヤブウツギ、ミツバウツギ科のミツバウツギ、バラ科のコゴメウツギ、カナウツギなどがあります。いずれもウツギ、「空木」からきており、茎が中空になるという形態的共通性があるのは、林縁で空間を占めるためには木本植物でありながら分岐して早く生長する必要があり、おから工事という手抜きをしたという表現がしっくりきます。自生地では土壌のある場所にウツギ、岩角地にマルバウツギ、空中湿度の高い半日蔭地にヒメウツギがすみわけています。ヒメウツギの垣根を見たことはありませんが、欧州では春の花壇を彩る人気者です。

タニウツギ属では日本海側にタニウツギ、太平洋側温帯にニシキウツギ、暖温帯にハコネウツギ、西日本ではヤブウツギが分布しています。ミツバウツギやバイカウツギはケヤキ林などの湿った林縁に生育し、生け垣に利用されることは少ないのですが、近年セイヨウバイカウツギが都会では流行っています。林縁の灌木で忘れてはならないのがアジサイの仲間です。暖温帯ではアジサイ園芸種の原種となるガクアジサイが有名です。そのほかタマアジサイ、冷温帯にはコアジサイ、太平洋側のヤマアジサイとその変種ともいわれる日本海側のエゾアジサイ、そしてガクウツギ、コガクウツギ、ノリウツギが梅雨の時期を挟んで、初夏から盛夏に花を楽しませてくれます。

生け垣では花を楽しむほかに食料として利用されるウコギも有名です。米沢藩では九代藩主「上杉鷹山公」がウコギの垣根を奨励したとされます。中国では薬用にトチュウ(杜仲)やヒメウコギの生け垣が知られています。そのほか、よく知られている落葉性の生け垣にはニシキギ科のイボタノキ、ニシキギ、コマユミ、ヤマツツジ、ドウダンツツジなどのツツジ類もあります。



ヒメウツギ 神奈川県西丹沢(海拔650m)

生け垣の主要な目的は目隠しですから、常緑性の灌木も良く利用されます。常緑ですから温暖な暖温帯気候の低地を中心に植えられています。ニシキギ科のマサキ、トベラ科のトベラ、バラ科のシャリンバイ、カナメモチ、モチノキ科のイヌツゲ、ツバキ科のサザンカ、チャノキ、マキ科のイヌマキなどが代表的で刈り取りにもよく耐えています。これらの自生地を見ますと、マサキ、トベラ、シャリンバイが海岸の風衝地にマサキトベラ群集という常緑低木林が自然植生として成立しています。イヌマキも海岸生の常緑針葉樹で生長すると樹高20mほどになりますが、刈り込みによる整形が容易です。西日本の沿海部では柑橘類の果樹園の防風用生け垣に利用され、その景観を房総半島まで見ることができます。カナメモチはレッドロビンなどの品種が良く使われますが、里山に見られるというよりは都会に多いです。イヌツゲ、サザンカ、チャノキも多く目にしますが、サザンカとチャノキはツバキの仲間なので、チャドクガが発生しやすく、敬遠されるようになりました。

亜熱帯の琉球ではフクマンギ、ゲッキツ、ゴモジュ、カンコノキ、ヒラミレモンなどの棘のある自生種を主に使っているのを目にしたことがあります。

里山の景観を特徴づける生け垣は四季の変化が美しい落葉性がイメージとして合いますが、都会では落ち葉の処理を考えると常緑がもてはやされることになるのでしょうか。

新樹種部会

第17回新しい造園樹木の研修会

越川 芳弘  
(有)越川園・千葉県



数年前にも一度、東京の現地研修を行いました。「違う季節にまた別の角度から見たい!」という要望に応えるかたちで令和元年9月3日(火)に東京都立川市を訪れました。

今回は「新樹種を生産している植木屋さんと交流しよう!」植木の宝庫、東京立川に集まろう!というテーマで緑化業界関係者の方々向けに企画させて頂いたところ、89名(内、初参加69名)の多くの方の参加で、大型バス2台での出発となりました。

最初の見学地、小林養樹園では分かりやすいご説明による園内案内で、特にトピアリーアートの魅力を十分に感じることができました。

次は東京都農林総合研究所です。大会議室をお借りし、昼食の後は佐藤澄人主任研究員から「オリンピック後の都市緑化について」の演題で講演を頂き、その後研究所内見学、会議室に戻ってからは新樹種部会の紹介、プロジェクターによる新樹種の解説を行いました。質疑も多く出て、活気に溢れ且つ和やかなムードの時間を過ごしました。



最後の視察先、須崎樹苗では樹木の掘り取り作業を見学しました。初めて見る大がかりな作業の様子に参加者の皆さんは写真を取りメモを取りながら興味津々で見入っていました。

3箇所の視察先はそれぞれ個性的な中身の濃い内容となり、研修終了後のアンケートでは参加者の方々から好評価を頂くことができました。研修会運営に関わった皆様の協力のおかげで、トラブルも無く遂行できましたことに、心より感謝いたします。本当に皆様、ありがとうございました。

最後の視察先、須崎樹苗では樹木の掘り取り作業を見学しました。初めて見る大がかりな作業の様子に参加者の皆さんは写真を取りメモを取りながら興味津々で見入っていました。

特集 竹はポピュラー、なれど不思議な植物 ①  
インドネシアで見た竹  
(2) 東南アジアの竹  
渡邊 政 俊



◆プロフィール  
1933年 富山県生まれ。京都外国語短期大学卒。1951~1991年京都大学農学部附属演習林文部技官。この間、故上田弘一郎京大名誉教授の研究を手伝う。1986年九州大学農学博士。1992~2002年(隔年)高知大学農学部非常勤講師。1993年以降林野庁の特用林産ビジョン検討委員会委員など竹・タケノコ関連事業委員を歴任。元国際協力機構(JICA)専門家(1970~72年タイ、1994、95、97年インドネシア、1996年チリ)。現在、竹文化振興協会専門員、京都市洛西竹林公園専門員。

インドネシアは約17,000の島嶼部からなる国で、1997年当時の森林面積は約1億2千万haと推計①されていた。しかし当時、その貴重な熱帯林が焼き畑や不法伐採などによって著しく減少傾向にあったことから、豊富な竹資源が注目され、日本の技術協力の基で竹資源に関する基礎調査が実施②された。

当時のインドネシアにはバンブーサ属、デンドロカラムス属、ギカントクロア属、シゾシタチュウム属など8属39種の熱帯性叢生型(株立ち)竹類が生育③していて、本稿では竹資源として注目されている一種と、印象に残った珍しい竹類4種を紹介したい。

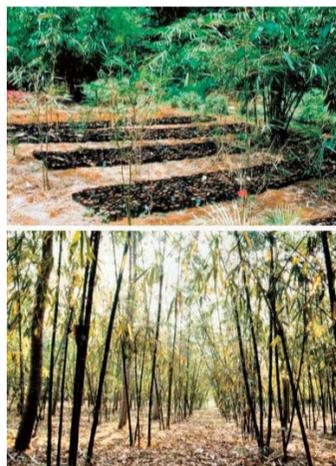


写真1 バンブ アター  
(上: 苗畑での育苗  
下: 広大な若い造林地)

バンブ アター;

*Gigantochloa atter* Kurz

本種はインドネシアに広く分布し、また栽培もされている株立ち型の稈径5~10cm、稈高20mにもなる種で、タケノコは食用、また竹材は竹製品、家具、建築材などに広く利用され、またパルプ原料として利用されている貴重な一種である。西ジャワ州で、本種が簡易ポットに株分けされて大量に育苗されている苗畑(写真1・上)を見ることができ、またスマトラ島のランブン州では大手製紙会社が2,000haもの竹林を造成し、その中に本種が整然と植栽されている若い造林地(写真1・下)があり、その林相は圧巻であった。

バンブ ブトゥン;

*Dendrocalamus asper* Back.

首都ジャカルタの南約60kmに位置するボゴール市には東洋で最大規模と称されるボゴール植物園があり、その植物園には各種の熱帯性叢生竹類が植栽されている。その中に稈径8~20cm、稈高20~30mにもなる立竹がびっしり株立ちしている巨大な本種に驚かされる(写真2)。なお、本種は東南アジア各地でタケノコ生産を目的に広く植栽されており、経済的には貴重な種である。



写真2  
巨大なバンブ ブトゥン

ワミン;

*Bambusa vulgaris* Schrader, 'Wamin'

首都ジャカルタ市内の公園で目にした一種で、英名でワミン、中国名で大仏肚竹(ダイブットク)と呼称される株立ち型で節間が極端に短く、かつ膨出していて、その稈形はまさに異様である(写真3)。本種はアジアの亜熱帯から熱帯で広く観賞用として植栽されており、公園や庭園には欠かせない珍種である。



写真3 珍種 ワミン

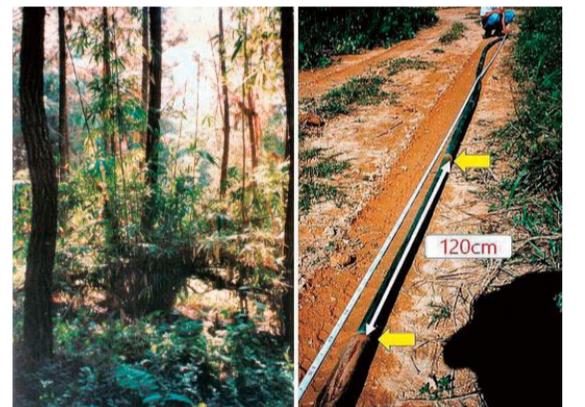


写真4 節間長の長いプロ スマン  
(左: メルクシマツに寄り添って生育 右: 節間長120cm)

プロ スマン: *Schizostachyum grande* Rid.

国際協力機構(JICA)が1981~83年、南スマトラ州プナカットで造成した2,100haの実験造林試験地で、造林木のメルクシマツに寄り添って生えていた株立ち型で節間長の長い一種を見た(写真4左)。その最大節間長を測定したところ、なんと120cm(写真4右)もあり驚いた。本種はマレーシアが原産③とあるが、スマトラでは籠などに編まれる④とのことである。

プリン・マンゴン: *Gigantochloa manggong* Widjaja

首都ジャカルタの東南200kmのバンドンで竹資源調査をしていたところ、竹稈が大きく湾曲し、枝が地面まで垂れ下がった株立ち型の竹を見た(写真5)。この個体は開花していて、下垂した枝にはびっしりと花穂が付き、その重さで枝が地面まで垂れ下がり、柳のような異様な姿であった。現地では箸や爪楊枝などに使われる④とのことであるが、世の中には不思議な形で生きる竹類があることに驚かされる。



写真5 柳のようなプリン・マンゴン

引用文献

- ①FAO (1994) Yearbook of production
- ②M. Watanabe (1997) JICA 報告書
- ③ Ohrnberger (2002) The bamboos of the world
- ④ Dransfield & Widjaja (1995) Plant Resources of South-east Asia No.7

# 日比谷公園ガーデニングショーに出展

10月24日(木)～27日(日)に東京都千代田区日比谷公園にて緑育出前授業実行委員会が主体で日本列島植木植物園運営委員会、青年部会関東ブロックの協力のもと、日比谷公園ガーデニングショーに緑育出前授業として初出展しました。



緑育委員会

緑育、緑の普及、将来の植木業界の実情を理解していただくことを目的として初の試みとして協会事業として参加した。

緑化啓発としてミニ盆栽づくりを行い、86名の方に体験してもらった。体験には20分程度かけ、育て方、緑の大切さのアドバイスをを行いながら、本格的な盆栽セットを半田茂富さんにお借りし、協会のPRを行った。

寄せ植えには、苗木(イロハモミジ、センリョウ、マンリョウ、常緑ヤマボウシ、シマトネリコ)、鉢6種類、色々な石を好みで選び作成していった。選んだ苗の特徴や育て方などを記載したシオリを渡した。参加者にはアンケートと協会・緑育パンフ等配布して更に緑の大切さに努め、体験終了者にスイセンの球根(若林芳樹さん贈呈)をプレゼントしたらとても喜んでた。

また、植木相談コーナーでは、実際に個人の庭やベランダでの植木の育て方、剪定の仕方等の質問が多かった。「365日の誕生日の木」大勢の方に紹介し、そこでも自分の誕生日の木の特徴などを伝えて、樹木に興味湧くよう、また身近に感じてもらうよう努めた。「趣味の園芸」等に出演している川原田先生もいたので、直接アドバイスを聞いて喜んでた。協会としても直接一般の方と植木の話が出来て、緑の啓発の大切さを実感した。

## 緑育出前授業実行委員会

委員長 生駒 順

### お台場おもてなしガーデンに出展

青年部会東日本B

8月24日(土)、25日(日)と連日、東京都江東区、お台場の「夢のプロムナード公園」で開催された「スポーツ&フラワーフェスタ2019」に5年連続で参加し、「こけ玉づくり」と「木への漢字パズル」ワークショップを開催した。緑育出前実行委員会が主体となり、青年部会東日本ブロックの多大な協力のもと実施しました。

2日間の「こけ玉づくり」に参加人数は133名。今年は、シマトネリコとヤツデの2種類から選んでもらいました。これからも緑育は継続が大切なので、次の世代に続けていきたいです。



### 小都市生涯学習センター

### アンビフェスタ小郡に出展 青年部会福岡支部

福岡県小郡市が主催する「Let' go 青少年アンビシャス運動 2019」において11月4日(日)にブースを開設して、フェスタに参加した親子、一般市民を対象に緑に関する普及・啓発を行った。

今年もこけ玉づくりもを行い、苗を15種類程度(ハーブ、シマトネリコ、イロハモミジ等)用意し、好きな苗木を選んでもらい、小さい子には手伝いながら一緒に作成した。児童を主体に行った「木偏の漢字」は、パズルで木偏の漢字を作り上げるもので、児童以上に保護者の方々が夢中になるなど好評であった。大盛況であったブースには、多くの親子連れが参加した。参加者からは、子どもと一緒に作ったこけ玉は、毎日水をあげて大切に植木を育てます、楽しかった、とても勉強になった、これからもこのような緑育に関するイベントを続けて欲しいとの声があった。



## イーハトーブの里からあなたのもとへ

農業生産法人 株式会社みちのくビオトープ

〒024-0022 岩手県北上市黒沢尻 3-4-25

TEL 0197-63-7536 FAX 0197-63-7543

e-mail qq34gv79@fork.ocn.ne.jp

樹木生産 20ha

コンテナ生産 5万本



石巻復興の森づくり植樹祭 2019

【(一社)日本植木協会協賛】



生産圃場